グローバルな社会課題解決の“今”をアップグレードする

HAPIC2020 開催報告

2020 年 5 月

認定 NPO 法人 国際協力 NGO センター（JANIC）

1．第 1 回 HAPIC 開催概要

■タイトル：課題解決の先へ。HAPIC－HAPPINESS IDEA CONFERENCE

■目的：グローバルな社会課題解決に関わるアクターが集い、学び、議論し、新しいアイディアやパートナーとの出会いを通して、社会課題解決を促進すること。

■主要テーマ：「ブレークスルー」

■開催日時：2020 年 2 月 14 日（金） 9:30～17:30　懇親会 17:45～19:15

■場所：KFC Hall＆Rooms（国際ファッションセンター） 東京都墨田区横綱 1-6-1

■構成：

・最新動向ホットイシューがわかる 13 のセッション（グローバル課題解決で活躍する登壇者 40 名）
・NGO・NPO との連携やサービス提供を希望する企業のよるブース出展
・ランチ、コーヒーブレイク、懇親会でのネットワーキングタイム

■助成：（独）環境再生保全機構、日本労働組合総連合会（連合）、（公財）庭野平和財団

■協力：（有）トラスト、（特活）日本ファンドレイジング協会、（株）博報堂、（株）WORLD FESTIVAL

■協賛：（特活）クロスフィールズ、（特活）テラ・ルネッサンス、（株）日本開発サービス、物品寄付型ファンドレイジングプログラム『お宝エイド』、（有）松田興業、リタワークス（株）

■後援：（一社）SDGs 市民社会ネットワーク、外務省、（特活）ETIC.、（一社）グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、（独）国協力機構、（一財）自治体国際化協会、（特活）ジャパン・プラットフォーム、（特活）新公益連盟、（特活）日本 NPO センター、立正佼成会一食平和基金

■主催：国際協力 NGO センター（JANIC）

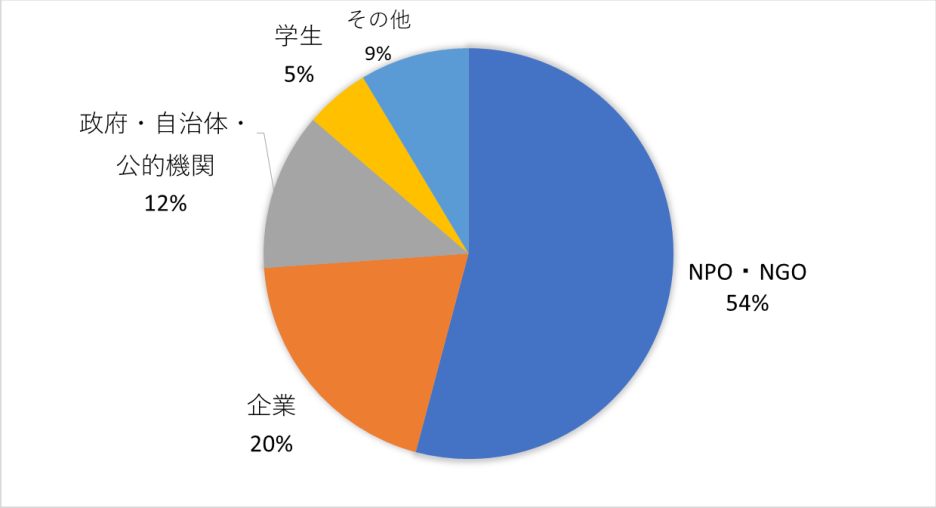
2．プログラム/セッション

9:30-11:30 オープニング セッション	●開会挨拶 木内真理子　JANIC 副理事長/ワールド・ビジョン・ジャパン 事務局長 **「共に生きる、サステナブルな社会を目指して」** ●キーノートスピーチ ライーズ・ベイグ（Raees Baig）　アムネスティ・インターナショナル 香港支部理事/長香港中文大学 ソーシャルワーク学部 准教授 ●パネルディスカッション ライーズ・ベイグ（Raees Baig） 本木恵介　JANIC 理事長/かものはしプロジェクト 理事長 桑原進　外務省　国際協力局　審議官・NGO 担当大使 長谷川知子　日本経済団体連合会 SDGs 本部長 モデレーター　古田 大輔　ジャーナリスト/株式会社メディアコラボ 代表
11:30-13:00 ランチ＆ ネットワーキング	●最新動向をキャッチアップ！気候変動・生物多様性と持続可能な開発目標（SDGs）の今 遠藤理紗　「環境・持続社会」研究センター（JACSES）　事務局次長 三石朱美　JELF（日本環境法律家連盟）事務局 井上寛人　Fridays For Future Tokyo 共同設立者 明治大学 情報コミュニケーション学部 2 年 新田英理子　SDGs 市民社会ネットワーク 理事・事務局長 ●日本の NGO 財務状況 中山雅之　国士舘大学大学院 グローバルアジア研究科 教授 ●香港における民主化運動 ライーズ・ベイグ（Raees Baig）　アムネスティ・インターナショナル 香港支部理事長/香港中文大学 ソーシャルワーク学部 准教授 トリニ•ルエン（Trini Lueng）元オックスファム香港 事務局長 阿古智子　東京大学 大学院総合文化研究科 准教授（中国研究） モデレーター　若林秀樹　JANIC 事務局長
13:00-14:30 ブレイクアウトセッション ①	●チームの可能性を引き出す“システムコーチング” 原田直和　CRR Global Japan（同） 川島菜穂　日本青年国際交流機構 モデレーター：長浜洋二　モジョコンサルティング（同）　代表 ●コレクティブ・インパクトは、社会課題解決促進のエンジンとなるのか？ 白木朋子　ACE　事務局長／共同創業者 三好恭平　JICA　産業開発・公共政策部 ガバナンスグループ 法・司法チーム 主任調査役 モデレーター：今田克司　CSO ネットワーク 常務理事 ●私たちは本当に安全な団体？～セーフガーディングの取り組み～ 子どもと若者のセーフガーディングワーキンググループ 細井なな　チャイルド・ファンド・ジャパン 支援事業部リーダー

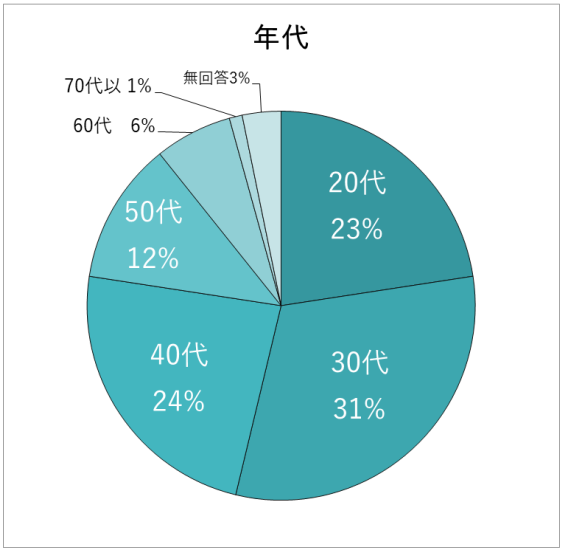
	池内千草　ワールド・ビジョン・ジャパン 支援事業部 開発事業第 1 課プログラム・コーディネーター 成田由香子　ACE 事務局次長／子ども支援事業チーフ 山田直樹　JANIC　メンバーシップ コーディネーター ●変化する国際協力業界～NGO はどうなる? 小松豊明　シャプラニール＝市民による海外協力の会 事務局長 熱田典子　アジア協会アジア友の会 副事務局長/ネパール事務所長 柴田裕子　ジャパン・プラットフォーム 緊急対応部 部長 モデレーター：小沼大地　クロスフィールズ 代表理事 ●JICA が挑む国際協力のオープンイノベーション～JICA Innovation Quest への誘い～ JICA Innovation Quest 運営チーム（JICA　企画部イノベーション・SDGs 推進室）
14:30-15:00	コーヒーブレイク＆ネットワーキング
15:00-16:30 ブレイクアウトセッション②

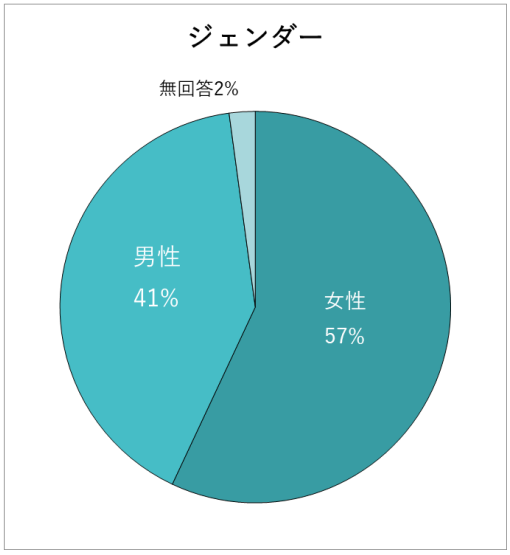
3．参加者概要

▸参加者数：314 名　（※スタッフ・インターン・ボランティア・アルバイト 25 名除く）
NGO、企業・社会的企業、政府・国連、自治体、財団、NPO、大学、学生、メディア

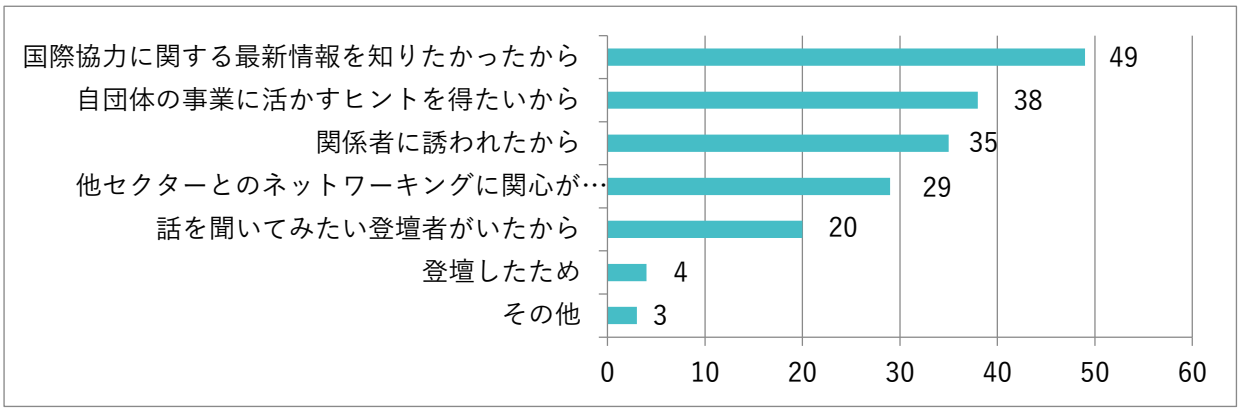


▸参加者年代、ジェンダー





▸参加理由



４．セッションレポート

社会課題のグローバル化や複雑化が進む中で、さまざまなアクターが出会い、課題解決の先にある“しあわせ－HAPPINESS”について共に考えることで新しいアイデアやパートナーシップが生まれる場をつくりたい、という想いからスタートした HAPIC。市民社会と官民学のトップランナー65 名が登壇し、300 名以上の参加者を迎えて全 16 セッションで白熱した議論が行われました。

キーノートセッション「共に生きる、サステナブルな社会を目指して」
～マルチセクターそれぞれの強みを生かした協働が、今、求められている

木内真理子 JANIC 副理事長のウェルカム・スピーチで開始し、HAPIC のネーミングに込められた想いを、「 私たち一人ひとりが考える“しあわせな社会”をつくるには、安心して声を上げることができる場が必要であり、HAPIC はそのような場所として、参加者一人ひとりが発言し、他の人の意見を聞き、共に考える場でありたい」と説明し、積極的な参加を訴えました。

アムネスティ・インターナショナル香港支部理事長ライーズ・ベイグ氏のキーノートスピーチでは、香港では民主化デモと新型コロナウイルス感染拡大を受け、差別が表面化していると指摘。このような危機的状況においてこそ多様性を尊重し、さまざまなアクターがそれぞれの強みを生かして協働する社会へと価値観の変革が必要、という課題解決の最前線からの問題提起がなされました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、ベイグ氏は急きょ香港からオンライン参加となりました。

続いて、外務省国際協力局審議官、NGO 担当大使の桑原進氏、経団連 SDGs 本部長の長谷川知子氏、JANIC 理事長の本木恵介、ジャーナリストで株式会社メディアコラボ 代表の古田 大輔氏がによるパネルディスカッションで、それぞれの立場から社会課題解決の取り組みと各々の強みを生かした協働のあり方を発表しました。
ディスカッションでは、NGO にしかできないことは何か？という問いかけに、専門性や企業や政府とは異なる視点の提供、裨益者に寄り添った利益にとらわれない姿勢など、NGO だからこそ可能な活動への期待が上げられました。同時に、その裏側にある、「資金を要求しがち」「批判的」といった NGO のネガティブ（欠点）な特徴といった本音トークも展開。その上でいかにマルチセクター・パートナーシップを進めていくべきか、という有意義なディスカッションが行われました。
また、インタラクティブな質疑応答が行えるクラウドサービス Slido を使った会場とのコミュニケーションや参加者同士の意見交換タイムを通して、会場も盛り上がりました。

JANIC 理事長の本木恵介からは、国際協力 NGO の存在意義として 3 つの仮説が示され議論がなされました。

課題解決の今とこれからがわかるブレイクアウトセッション

キーノートセッションでも言及された“NGO の存在意義”に関して議論を行ったのが「**変化する国際協力業界～NGO は何を守り、何を変えるのか？**」。世代や活動、地域性の異なる NGO から登壇者を迎え、“NGO らしさ”とは何か、NGO の現状と将来のありかたについて、グループワークを交え議論を実施。“組織の柔軟性”や“持続可能性”、“対話（わかりやすく伝えること）”といったキーワードが上げられました。

「変化する国際協力業界～NGO は何を守り、何を変えるのか？」NGO のアイデンティティについての参加型ワークショップ。活発な意見交換が行われました。

NGO は具体的にどう変わっていくべきか。新しい事業や組織のありかたについて、政府、コンサルティング会社、NGO による「**コレクティブ・インパクトは、社会課題解決促進のエンジンとなるのか？**」では従来とは異なる連携のあり方、新進気鋭の NGO が取り組む「**5 年間の 100%テレワーク実施で見えてきた！ 多様な働き方の秘訣と課題**」では優秀な人材を惹きつける新しい働き方、「**チームの可能性を引き出す“システムコーチング”**」ではチームの相互理解のための手法について事例紹介やグループワークが行われました。

緊急支援 NGO による「**進化する人道支援：最新国際基準とキャッシュ支援**」と、各セクターの有識者による「**『ビジネスと人権』行動計画（NAP）が社会を変える！**」では、NGO がリードする課題解決に向けたグローバルな基準について、詳細や今後どう広めていくか、各セクターでの取り組みが紹介されました。
また、「**私たちは本当に安全な団体？～組織内で取り組む子どもと若者のセーフガーディング～**」においては、NGO 自身が守るべき行動規範について、日本の NGO での取り組みと JANIC のワーキンググループにおける議論の経過が発表されました。

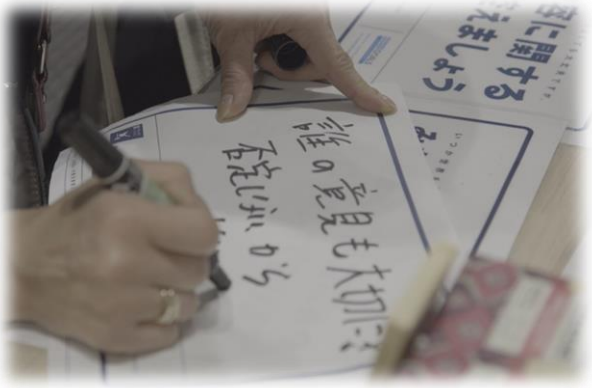
今回の HAPIC では次世代が登壇するセッションにも多くの参加者が集まりました。「**JICA が挑む国際協力のオープンイノベーション～JICA Innovation Quest への誘い～**」では JICA 入職 3、4 年目の職員とプロジェクトに参画している民間企業の社員たちが SDGs ゴール 2（飢餓・食・栄養・持続可能な農業等の分野）の課題をテーマとした新規プロジェクトを紹介。若手ならではの新しい発想に会場からもたくさんの質問が寄せられました。

対して、「**Under 30：次世代 NGO がつくる未来**」では、若手 NGO リーダーたちの葛藤や苦悩が語られ、同じ悩みを抱えるアクター同士が課題を共有し合える場の大切さが再認識されました。
また、「**最新動向をキャッチアップ！気候変動・生物多様性と持続可能な開発目標（SDGs）の今**」でも、次世代 NGO の SNS を活用した活動に大きな注目が集まりました。

若手 NGO のセッションでは、次世代 NGO の等身大のトークが参加者の共感を呼びました。

その他にも、「市民社会 スペース：CSO と ODA のパートナーシップを考える」では NGO と ODA の関係性のあり方、「NGO の財務状況」では、NGO のこれからを考える上で必要となる NGO の財務状況の分析結果が議論され、さまざまな面から社会課題解決について考える一日となりました。
また、急きょ開催された「香港における民主化運動」では、日本では一辺倒の報道しかされない香港の民主化デモについて、香港から生の声を聞くことができました。

さまざまな人と出会うブースエリア



HAPIC はさまざまな人が出会い、新しいアイデアが生まれる場を目指し、1 日を通して複数回のネットワーキング・タイムをもうけました。会場のあらゆるところで、普段は会うことのないセクター同士の参加者が名刺交換をしたり、知人と再会し、人を紹介し合ったりする様子が、見られました。メインホールの入り口に設けられたブースエリアでは、6 団体がブース出展。当日は HAPIC 限定のサービスもご用意いただきました。

また、JANIC が博報堂グループと共に開発した SDGs 普及啓発ツールの「ひとこと多い張り紙」の展示、ワークショップの紹介も行いました。

第 2 回 HAPIC に向けて – しあわせのアイデアをどうかたちにしていけるか

1 日を締めくくったクロージングセッションでは、門田瑠衣子 JANIC 理事と山元圭太 元 JANIC 理事によるモデレートのもと、会場を巻き込んだ意見交換が行われ、一日を通して得た学びや意見を共有しました。また、日本の NGO をつくり上げてきた第一世代からも熱いエールが送られ、若手世代に大きな後押しとなりました。

一日を通し、グループや隣の席の人と意見交換をする時間を多くもうけました。

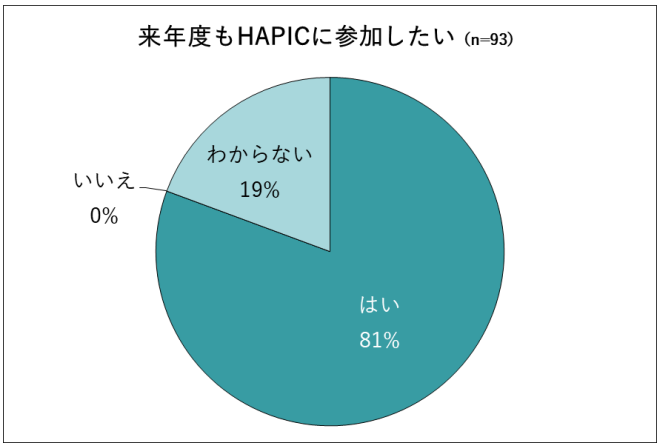
日本の主要な NGO の財務的特徴を知ることができ、とても貴重な情報でした。
自団体が、NGO セクターの中でどのあたりのポジションにあるのか参考になりました。

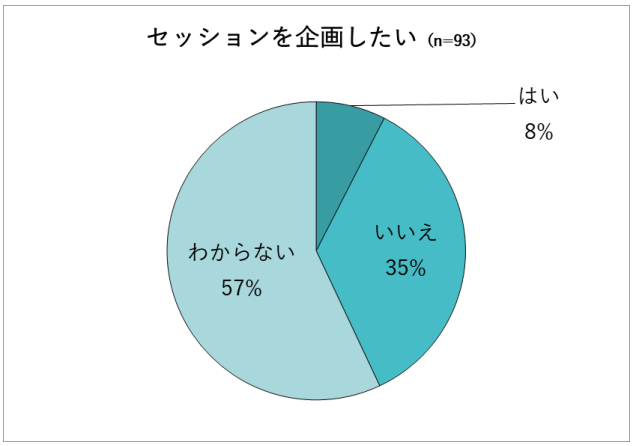
5．参加者アンケート

▸HAPIC のコンセプトおよび目的に対する満足度（0～10 の 11 段階）についてお尋ねします。

	無回答	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
全体	3	0	0	0	0	2	2	5	19	26	14	22	93
ランチ/コーヒーブレイク	8	0	0	0	1	0	11	13	17	23	7	13	93
ブース	9	0	0	0	0	3	23	13	13	18	5	9	93
ネットワーキング・レセプション	60	0	0	0	0	0	3	4	7	11	4	4	93

▸HAPIC への今後の関わり





▸コメント（一部抜粋）

・セッションで照会された事例が具体的で内容に説得力があった。
・NGO が抱いている危機感の一端を感じることができたと思う。
・1 つの優良事例に対し、多角的な視点でお話を聞けたのでわかりやすかった。
・プラットフォームを NGO だけで作り上げるのは困難だと思うところで、どのような関係性から共創に至ったのかが分かり、とても興味深かった。
・ワークショップ形式で参加者全体で NGO のこれからについて考えることができた。
・体験型ワークショップがあったので、自分の所属する組織に取り入れられるポイント、手法があってよかった。
・ NGO 活動の評価について議論したが、NGO の活動を知らない者として、実状を把握できた。
・ CSO と ODA と言われると関連性がよく分からなかったのですが、登壇者の話を聞いて『なるほど、こんな手があるのか』と眼から鱗の思いでした。
・NGO を動かしている人たちの等身大の悩みが確認できた。
・率直な本音を表現していただき、会場全体が共感と応援の気持ちで、温かく包むような感じで一体となっていたように感じた。

多くの皆様にご参加いただき HAPIC を開催できたのもひとえに協賛・協力・後援を頂いた団体、登壇者、来場者の皆様のおかげです。あらためてお礼申し上げます。